

健幸TVの活用による健幸交流とウェルビーイングコミュニティの実現	<b>取組開始時期</b>	2020年10月	<b>取組の カテゴリ</b>	地域活性化
----------------------------------	---------------	----------	---------------------	-------

<b>1. 団体名</b>	アグリマス株式会社	<b>2. 連携先の 団体</b>	北海道情報大学・NPO法人小さな村総合研究所・山梨県丹波山村
---------------	-----------	-----------------------	--------------------------------

<b>3. 取組 目的</b>	「丹波山村地域おこし企業人」～健幸TVを活用した毎日運動習慣と、管理栄養士によるオンライン栄養指導を核とした地域、首都圏、双方のウェルビーイングの実現	<b>4. 関連する ゴール</b>	   
---------------------	---	------------------------	---

**5. 取組詳細（取組内容の詳細及び取組によって得られた成果、今後の方向性等）**

本事業は、北海道情報大学・NPO法人小さな村総合研究所・山梨県丹波山村・アグリマス株式会社の四者が連携をして行っている産官学NPOでの「健幸交流プロジェクト」です。本年10月にアグリマス株式会社は山梨県丹波山村と正式に「地域おこし企業人」の契約を締結しました。本事業は、過疎の村である山梨県丹波山村の情報格差、更には専門の人材不足による健康格差を解消することを目的に行っています。すでに丹波山村のケーブルテレビ向けに、認知症予防として「健幸TV」という自社のコンテンツ配信を行っております。このコンテンツに加えて本事業では、北海道情報大学が北海道江別市で展開をしている「クラウド型e-ヘルステーション」という血圧や体組成の計測を行えるシステムを用いて住民の健康維持や増進を進めていくことを考えております。また、このe-ヘルステーションのサービスはパソコンやスマートフォンと連携することで、遠隔で食事や健康管理を行うことができます。こうした先進的なIoTの仕組みも取り入れながら、アグリマスのグループ会社の管理栄養士によるオンラインでの栄養指導など、1 to 1のきめ細かなサポートも行っております。

また、地域の方々が健康になる中で、逆にメンタルケアの目的による首都圏からのワーケーションの実施、空き店舗の活用による移住の促進、地域の特産品のプロモーションを地域と連携して行っています。アグリマスが運営する東京大田区のデイサービスでは、既に舞茸、コンニャク、柿などの地域の特産品をランチの食材として活用、その料理のレシピや調理動画を村のケーブルテレビで配信することも行っております。

最終的なゴールとしては、地域、首都圏双方のウェルビーイングコミュニティの実現、さらにはこのビジネスモデルを他地域にも広めていきたいと考えており、プロジェクトの全体の「SDGs社会的インパクト評価」の手法も取り入れながら、新しい形での資金調達モデルも模索してまいります。



丹波山村コミュニティサロンに設置しているe-ヘルステーション

丹波山村の様子



**取組のポイント（3つの視点）**

**地方創生SDGsの視点**

- ・住民の健康データを集め地域の現状を把握し、地域住民の健康維持や増進に貢献する
- ・都市と地方を遠隔でつなぐサービスやケーブルテレビを活用し、地域間の情報格差をなくす。
- ・地域のPRやイベントの開催により、移住や定住者を促進させる機会にする。

**ステークホルダーとの連携**

- ・メディカルシステムネットワーク（株主）の管理栄養士との連携
- ・山梨県丹波山村（産官連携）は、「地域おこし企業人」の契約を締結し、村おこしなどに貢献していく
- ・NPO法人小さな村研究所（協業先）本プロジェクト開始におけるコーディネータとして連携している。

**モデル性・波及性**

「社会的インパクト評価」による新しい形での資金調達手段を模索し、今後は他の村や離島での展開を目指していく。将来的に他地域にも広めていけるようなビジネスモデルを確立していきたい。

### 自由記述欄

- 北海道情報大学コメント:**地域住民のデータ収集をおこないまずは、現状把握を行いたい。そして、臨床試験としてe-ヘルスステーションや名産品が人々の生活に良い影響を与えているかなどを解明していく。その後、名産品はブランド化などをして健康増進として有名な地域として確立させていきたい。  
[https://wellness.do-johodai.ac.jp/check\\_station-2](https://wellness.do-johodai.ac.jp/check_station-2)
- NPO法人小さな村研究所小村代表コメント:**小さな村と都市住民とが交流しながら相互補完し双方の課題解決につなげていく。小さな村の予防医療、都市住民のメンタルヘルスケアへの取組は、まさに一人一人が健康となり、医療保険料の財政負担軽減にまでつながる取組みです。産官学NPOがそれぞれ得意なところで協働する本取組みは、いわば日本全体が抱える課題解決につながる先進的な一歩になると確信しています。
- 2030年への目標:**2030年に向けては以下の図に示しているようにまずは、定期的に村への通信を発行及び、村に訪問して住民との交流を深めて行きたいと思えます。また、行政との連携を深め、現在、自社が行っている「健幸TV」の動画制作技術を活かし、村の広報PRに貢献していきます。住民の方々には知識を深められるような情報の提供を「健幸TV」の提携先の方々行うとともに、村外の人々へのPRを行い双方向での情報格差の改善をします。そして、空き家や独居率等を調査し、空き家リフォームや専門家との連携を深めます。そして、村外からの移住者を獲得し村民と村外へ方々両者がウェルビーイングを実現します。

